

地球システム科学は限りある地球を有効に利用して人類の持続的発展を達成させるために必要不可欠な学問分野である。従って関連科学技術の推進は各方面から強く要請されており、喫緊に解決せねばならない課題も多い。

当研究所は関連科学技術のうち、特に、資源・エネルギー開発、社会基盤整備、地下水、防災、環境保全などの分野に重点をおき、研究開発と研究成果の実際への有効利用を速やかに推進するために、公益事業（継続事業）である、1）当研究所独自の課題について研究開発を行い、その成果を公表して科学技術の発展に寄与する自主研究事業と、2）研究成果の普及および技術者・研究者の育成のために、研究会・講演会・セミナー・講習会等を開催する研究会等開催事業、及び、その他事業である3）産業界からの要請に応じて関連科学技術に関する課題の研究開発及び技術開発等を行う研究等受託事業、などを積極的に実施し、多くの有益な成果を挙げ、我が国の科学技術の発展に貢献してきた。

平成24年度には、地球システム工学の基幹分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・防災工学などに関する基礎的及び応用的研究が活発に行なわれ、多くの有益な成果が得られた。これらの研究成果等を踏まえ、地球システム工学に関する研究成果の普及とその有効利用を促進するために、特別講演会を1回、研究会を3回主催すると共に、平成24年9月13～14日にタイ国バンコック市で開催された「EIT-JSCE Joint International Symposium on Geotechnical Infrastructure Asset Management 2012」、及び、平成24年11月19日に京都市の芝蘭会館で開催された「The 16th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics」を後援及び共催した。また、当財団法人のホームページを刷新 (<http://www.geosystem-research.com/>) し、その充実を通して関連科学技術の普及に尽力した。

以下に平成24年度の活動状況を示す。

[1] 理事会、評議員会

「平成24年度 第1回定例理事会」

平成24年6月26日（火）、15：00～16：30、 京都大学楽友会館 2階 会議室（6）

出席理事：4名（青木謙治（代表理事）、大津宏康、松岡俊文、浦山 克）、

欠席理事：1名（大西有三）、 出席監事：2名（全員）

相談役：1名（佐々宏一）、 事務局：主事（安川郁夫）

「平成24年度 定例評議員会」

平成24年6月26日（火）、16：30～18：00、 京都大学楽友会館 2階 会議室（6）

出席評議員：5名（全員）

出席理事：2名（青木謙治（代表理事）、大西有三）、 出席監事：2名（全員）

相談役：1名（佐々宏一）、 事務局：主事（安川郁夫）

「平成24年度 第2回定例理事会」

平成25年3月12日、16：30～17：30、 京都大学楽友会館 2階 会議室（6）

出席理事：4名（青木謙治（代表理事）、大津宏康、大西有三、浦山 克）、

欠席理事：1名（松岡俊文）、 出席監事：2名（全員）

相談役：1名（佐々宏一）、 事務局：主事（安川郁夫）

[2] 部門研究会活動

現在、当財団法人内には次に示す10部門研究会が設置されており、それぞれの部門研究会が公益的な自主研究活動及び受託研究活動を活発に実施するとともに講演会および研究会を開催した。

- | | | |
|--------------------|-------------|--------------|
| 1) 地球統計学研究会 | 2) 岩盤工学研究会 | 3) 写真計測研究会、 |
| 4) 京都地盤研究会 | 5) 岩盤水理研究会 | 6) ジオリスク研究会、 |
| 7) 東南アジア岩盤研究会 | 8) 地下可視化研究会 | 9) 地下水工学研究会、 |
| 10) 不連続性岩盤解析実用化研究会 | | |

[3] 事業

1) 調査・研究受託

下記の 11 件の調査・研究を受託し、活発な自主的及び公益的研究を実施した。

- 1) エネルギー・環境分野におけるグローバルな事業展開に関する調査・研究。
- 2) 竜王山トンネルのアドバンストSWING手法適用に係る研究。
- 3) 高レベル廃棄物への適用性の研究。
- 4) トンネルの技術開発及び建設市場の動向に関する指導。
- 5) 長大法面の変状及び経年劣化に関する調査研究。
- 6) 各種岩盤でのグラウティングシステムの研究（その 1）。
- 7) 各種岩盤でのグラウティングシステムの研究（その 2）。
- 8) 岩盤地下貯槽における空洞安定・気密性評価に関する研究指導。
- 9) 初生崩壊および土石流・河川洗掘の評価事例の動向調査。
- 10) 道路トンネル走行型計測結果のデータ整理、評価の指導。
- 11) 高速道路のサービスエリアにおける雨水流出抑制効果の検証

2) 研究会・講演会・講習会

1. 主催

今年度は部門研究会が中心となる下記の講演会及び研究会を合計 4 回開催した。以下に開催日順にその内容を示す。

① 京都地盤研究会 第 17 回特別講演会

日時：平成 24 年 5 月 10 日（木）、15：00～17：00、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂
参加人数：108 名

② 京都地盤研究会第 49 回研究講演会

日時：平成 24 年 7 月 18 日（水）、13：30～17：00、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂
参加人数：103 名

③ 京都地盤研究会第 50 回記念研究会・交流会

日時：平成 24 年 11 月 14 日（水）、13：30～17：00、場所：京都大学楽友会館 2 階講堂
参加人数：83 名

④ 京都地盤研究会第 51 回研究会

日時：平成 25 年 1 月 24 日（木）、13：30～17：00、場所：京都商工会議所 3 階 講堂
参加人数：87 名

2. 共催

① The 16th International Symposium on Recent Advances in Exploration Geophysics

開催日：平成 24 年 11 月 19 日

3. 協賛

なし。

4. 後援

① EIT-JSCE Joint International Symposium on Geotechnical Infrastructure Asset Management 2012

開催日：平成 24 年 9 月 13 日～14 日

以上のように本年度も公益的な自主研究及び受託研究を実施するとともに、講演会及び研究会を開催して、地球システム工学の中心的な学問分野である地質工学・探査工学・地盤工学・岩盤工学・資源エネルギー工学に関する研究および啓発・普及活動を積極的に行ない、関連する科学技術の発展に寄与するとともに有意義な多くの研究成果が得られた。

[4] 財務状況

平成 24 度の財務状況は別紙「平成 24 年度財務諸表」のとおりである。

以上